秋田魁新報　2023年09月03日付　県北

フィリピンの高校生ら10人
バスケなどで国際親善
能代科技高を訪問、交流

能代科学技術高の生徒（右）と交流するフィリピンの一行

バスケットボールのプレー経験があるフィリピンの高校生ら10人が1日、能代市の能代科学技術高校を訪れ、バスケ部との親善試合や授業への参加などを通じて交流を深めた。

外務省の国際交流事業「対日理解促進交流プログラム」の一環。日本やフィリピンなどが共催中のバスケ男子ワールドカップ（W杯）を契機に、双方の若者にバスケを通じた友情を育んでもらおうと、事業を受託している日本国際協力センター（東京）が企画した。

セレモニーで藤田博樹校長は「本校は国内外で大ヒットしたバスケアニメ映画『スラムダンク』に登場する高校のモデルとなった。親睦を深め、生涯の思い出となることを期待する」と述べた。

能代科学技術高バスケ部との親善試合で親睦を深めた

フィリピンの一行を代表し、アントニア・ソフィア・リリ・ロボスさん（15）が「絆を深め合い、忘れることのできない日にしたい」と話した。

一行は1年生の理科と英語の授業に出席。ホームルームや清掃にも参加した。

放課後は体育館に移動。青色のユニホームを身にまとい、バスケ部員とともに体を動かした後、親善試合に臨んだ。華麗なステップやドリブルでディフェンスをかわしシュートを決めると両チームから歓声が湧き起こった。

フェルディナンド・ジュニア・トメルデン・オルピリアさん（16）は「相手のパス回しが巧みでタフな試合だった。日本でバスケができてうれしい」と語った。

一行は8月31日に来県。2、3日は藤里町でホームステイを体験し、5日に帰国する。（斉藤慎太郎）

©秋田魁新報社